

第22回 薬害を学び再発を防止
するための教育に関する検討会

令和5年3月13日

資料2 - 1

高等学校における薬害教育について

ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

「公共」の教科書（令和4年度）における記載（主なもの）について

出版社・書籍名	本文	具体例
東京書籍「公共」 ※著作者:間宮陽介ほか30名	「消費者問題の歩み」として、敗戦後の日本について「日本経済の復興とともに食品問題や公害、薬害問題が社会問題となった」と記載。	サリドマイド（年表）
教育図書「公共」 ※著作者:鈴木寛ほか18名	—	コラムとして薬害エイズ事件の概要と写真を掲載。
実教出版「詳述公共」 「公共」 ※著作者: 詳述公共 中村達也ほか9名 公共 桐山孝信ほか8名	—	【詳述公共】（年表） サリドマイド、スモン、薬害エイズ、C型肝炎
		【公共】（年表） 薬害エイズ
帝国書院 「高等学校 公共」 ※著作者:苅部直ほか10名	「消費者がすべての商品について十分な情報を持つことは難しい。製品の情報に関して企業と消費者には格差、すなわち情報の非対称性がある。」と説明し、「また、60年ごろのサリドマイド事件や80年代の薬害エイズ事件のような薬害も発生した」と記載。	表で、サリドマイドと薬害エイズについて事件の概要を説明。
数研出版「公共」 ※著作者:矢野智司ほか18名	—	サリドマイド（年表） スモン（年表） 薬害エイズ（年表）
東京法令出版「公共」 ※著作者:青井未帆、大屋雄裕、 重田園江、水野和夫ほか13名	—	サリドマイド（年表） 薬害エイズ（年表）

「政治・経済」の教科書（令和5年度から使用予定）における記載（主なもの）について

出版社・書籍名	本文	具体例
東京書籍「政治・経済」 ※著作者:杉田敦ほか17名	—	サリドマイド（年表） スモン（年表） 薬害エイズ（年表） C型肝炎（年表）
実教出版 「詳述政治・経済」 「最新政治・経済」 ※著作者: 詳細政治・経済 諸富徹ほか9名 最新政治・経済 中村達也ほか9名	詳細政治・経済： —	サリドマイド（年表） スモン（年表） 薬害エイズ（年表）
	最新政治・経済： 「消費者運動と行政のあゆみ」として「日本では過去にさまざまな薬害事件が生じた。」と説明した上で、主な事件としてサリドマイドやスモン、薬害エイズを挙げて概要を説明している。	サリドマイド（年表） スモン（年表） 薬害エイズ（年表）
清水書院 「高等学校 政治・経済」 ※著作者:中野勝郎、栗原久、宇南山卓、 大西楠テアほか7名	消費者運動と消費者主権の解説として、「消費者が、企業などの不正の被害者となる消費者問題はあとを絶たない。戦後日本では、薬害や有害食品問題のあいつぐ発生などに対して、消費者運動が展開されてきた。」と記載している。	—
数研出版「政治・経済」 ※著作者:岩田一政ほか11名	—	サリドマイド（年表） スモン（年表） 薬害エイズ（年表）
第一学習社 「高等学校 政治・経済」 ※著作者:谷田部玲生ほか11名	—	サリドマイド（年表） スモン（年表） 薬害エイズ（年表）

薬害に関する授業例について ◆実施校①：大阪府立野崎高等学校

高校1年生 公民科（公共）「経済に関わる事項について」

※より活発な経済活動と個人の尊重の両立について学習する際に、「薬害」について扱い、薬害を防ぐための政府の役割や企業の責任、消費者に求められる行動について理解できるようになることを狙いとして本時が実施された。

授業の流れ

導入

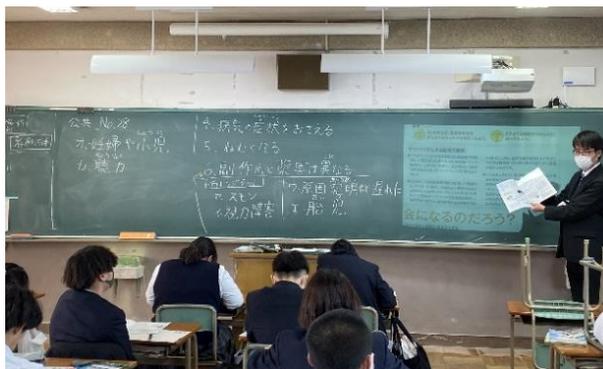
- 厚生労働省作成の薬害に関するパンフレット「薬害を学ぼう」及び学校作成のワークシートを配布
- 「薬害を聞いたことがあるか」「薬は何のために使うか」を生徒に質問

【生徒の反応】
「聞いたことない」
「体を良くするため」「しんどいときに使う」との返答あり



薬害の基礎知識インプット

- 穴埋め問題（ワークシート）について、生徒がパンフレットを参照しつつ回答を記入
- 空欄の答えを生徒に聞き、薬害に関する症状がどのようなものかを解説



ワークシートを活用しながら、薬害の基礎知識のインプットを図る

（続く）

被害者の声を聴く

- スモンやサリドマイド被害者の声を視聴
- ※厚生労働省作成の「薬学を学ぼう」視聴覚教材
【3】被害者の声



まとめ

- 国、製薬企業、医療従事者、国民のそれぞれの役割をパンフレットやワークシートを用いながら解説
- 薬害について新たに知ったこと、考えたことや感じたことをワークシートに記入し、振り返り

【生徒の感想（抜粋）】

- 薬害って言葉、初めて知ったけど、身近な所でおきるかもしれないと思うと怖いと思った。この被害者の方々の声を聞いて、薬に関心を持つようになった。
- 被害者は悪くないのに、偏見や差別を受けていてかわいそう。そうならないためにも、1人1人ちゃんと理解するのが必要だと思った。



【ワークシート（抜粋）】

- 薬害について初めて知ったし、薬を使った人でなく、胎児に影響が出たり、正しい知識を得てから薬を使うことが大切なんだなあと考えた。
- 「薬だから大丈夫」だと思って飲んだら、その薬のせいで障害をわずらうのは怖いなと思った（薬だけのせいではないけど）。障害をわずらった人の子どもにも被害が出る可能性があるのも怖いなと思った。

生徒の感想

アンケートから抜粋

【授業で一番印象に残った内容】

- 病気を治そうとして薬を使ったのに、体に障害を抱えることになってしまったこと。
- 薬害のせいで、偏見・差別にあったこと。
- 安全だと言われている薬でも危険性があるって、体に害が出てしまうことがあること。 など

【授業で良かった点】

- スクリーンを見ながらプリントを書く方法が、授業を受けやすくてよかった。
- プロジェクターを使った説明。
- 薬害で苦労している人がいることを知り、自分の周りにもそういった人がいるのかもと考え直す機会になった。 など

薬害に関する授業例について ◆実施校②：埼玉県立入間向陽高等学校

高校3年生 公民科（政治・経済）「消費者に関する問題」

※前時における学習活動

- ・パンフレット「薬害を学ぼう」を活用して薬害について学習し、DVDで被害者の声を視聴。
- ・4人1組のグループを作り、グループごとに1つの薬害を選択。
- ・（本時までの宿題）各自、自分のグループで選択した薬害について調べ、ワークシートに記入する

本時の授業の流れ

グループワーク①

- グループ内で、前時に選んだ薬害について各自調べてきた事項を共有（約5分）

【グループ内で共有された事項】

薬の内容 / 対象者 / 被害内容や具体的な症状/原因/国や企業等の対応/被害者の人数/訴訟の有無等の観点について、グループ内で共有された。

グループ替え

グループワーク②

- 他の薬害についても学べるよう、グループ替えを行い、自分が調べたもの以外にどのような薬害があるのかについて、他者の発表を聞いて理解（約15分）



グループワーク①の例：HIVについて調べた4人

グループ替え



グループワーク②の例：HIV、C型肝炎、スモン、サリドマイドについて調べた4人

（続く）

全体討議

- グループワークで共有された様々な薬害に関する事項について、共通する点や今後の教訓をグループ内で議論
- 話し合った結果をグループごとノートパソコンに入力し、全体に共有（約20分）

※各グループがノートパソコンに入力した事項は、リアルタイムで黒板に投影され、生徒全員で意見共有可能な仕組み。

（例）様々な観点が共有された。

- 国の対応の遅さなど「**国**」に着目
- 自分でも情報収集を行うべきなど「**消費者**」に着目
- 医者が気をつけるべきだったなど「**医療機関**」に着目
- 治験を時間をかけて行うべきだったなど「**製薬会社**」に着目

まとめ

- 各グループで、薬害に対する一言を作成し、発表（約10分）

【一言】

- 「治療薬だけど命に関わる」
- 「薬は便利だけど、使用するときはよく調べる」
- 「実験を行い有効性と危険性を示し、万が一危険性がある場合国が隠蔽せず迅速に対応する必要がある」
など



生徒の感想

アンケートから抜粋

【授業で一番印象に残った内容】

- 多くの薬害は、薬を製造・使用する人の安全性の確認不足や不注意から起きている。
- 危険なものだと分かっていたのに使われ続けていたこと。
- 薬は人の命を助けるものであるけど人の命を奪うこともあるということ。
- 薬害も副作用とほぼ同じような症状かなとおもっていたけれど実際は全く違ったこと など

【授業で良かった点】

- 薬害の危険性について改めて知ることができた点
- ただ先生から教えてもらうだけではなく、自分自身が調べそれを他の生徒に教える方法だった点
- 調べたことを自分でまとめて自分の言葉で伝える点
- 1つの薬害だけではなく他の人が調べた薬害を共有することでしっかりとした教訓などを考えることができた点 など